

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.2 2 4】

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約 400 力所へ BCC 送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。

本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1) 新規の情報提供希望者が身近におられた場合、BYA-HP の「お問合せ」をご紹介ください。
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2) 有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3) 情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で自由に「転送・SNS 拡散」してください。

【目次】

1. ベンゾジアゼピン副作用の実態パターン (私見)
2. 当会は「ベンゾジアゼピン薬害の国家賠償請求集団訴訟」を目指す原告団体
3. 第 2 2 回 精神障害者への 3 漬けによって損害を被るのはだれなのか? (会員の情報提供)
4. 「ボイスオブデイズー5」 (会員の情報提供)
5. 厚生労働省への意見書 (医師の行政処分、医療法違反) (参考添付)
6. 控訴状_強制執行停止事件 (参考添付)
7. 誰に相談したらよいか_救いの道はある (松本俊彦) _LISA Vol.27 No..04 2020-4 (添付)

【記事】

1. ベンゾジアゼピン副作用の実態パターン (私見)

400 通近いベンゾジアゼピン被害者からのメールを拝見して、概ね、ベンゾジアゼピン被害者の実態は次の 3 パターンに集約できます。

①原疾患が「不眠」で、内科医等からベンゾジアゼピンを処方され飲み続けたパターン。ベンゾジアゼピンは鎮静効果・睡眠導入効果があるため、「よく眠れた」となり、医師から継続処方されている。やがて、薬物耐性が生じて、どんどん力価を増やさないと眠れなくなり、「薬物依存」を経て、減薬すると「離脱症状」や「反跳性不眠」を発症する。また、「奇異反応」を発症すると、人間関係が崩壊して、失職・家庭崩壊へと進む。ベンゾジアゼピンを飲み続けても「不眠」が寛解することはない。

②原疾患がめまい等の「自律神経失調症」で、内科医又は心療内科医等からベンゾジアゼピンを処方され飲み続けたパターン。最初は「自律神経失調症状に効果がある」と感じて、医師から継続処方されている。やがて、薬物耐性が生じて、どんどん力価を増やさないと効果がなくなり、以降は、上記①とまったく同じ経過をたどる。ベンゾジアゼピンを飲み続けても「自律神経失調症」が寛解することはない。

③原疾患が「不安障害又は精神疾患等」で、精神科医又は心療内科医からベンゾジアゼピンを処方され飲み続けたパターン。抗精神病薬や抗うつ薬と併用してベンゾジアゼピンを服用している。患者本人は「ベンゾジアゼピンの影響」を感じているが、主治医は「原疾患だ」と診断している。以降の経路は、上記①及び②と同じだが、ベンゾジアゼピン副作用の立証が一番困難なパターンであり、いわゆる「セーフティネット」から漏れ落ちる可能性が高いパターンである。当然、ベンゾジアゼピンで「精神疾患等」の原疾患が寛解することはない。また、パターン①及び②からパターン

③へと移行するケースもあり、同様に、ベンゾジアゼピン被害の立証が困難になる。

いずれのパターンでも、ベンゾジアゼピンは「急性期の鎮静効果」しかなく、原疾患を治癒させる効果 (作用機序) は乏しく、症状の鎮静を目的に長期間にわたり服用するメリットは小さいため、服用期間が延びれば延びるほど、デメリット (依存、離脱、奇異反応) が大きくなっていく。したがって、ベンゾジアゼピンを長期間にわたり服用するメリットはまったくない。あえて連用する効果を上げるとすれば、

「薬物依存、離脱症状、奇異反応」を承知の上で、鎮静効果を得続けるため、服用を継続することはあるかもしれないが、それは医療とは言えない。

また、いずれのパターンでも、患者は「医師の指示どおりに服用を続ければ、病気が良くなる」と信じて、真面目に服用を続けていること自体が、哀れな結末を生んでいる。ベンゾジアゼピンは短期間の効果がある内に、生活改善等により、原疾患を改善するチャンスの時期を生かすための薬剤であり、ベンゾジアゼピン自体が原疾患を治癒させる効果・効能はない。

そういう被害者の実態の中で、どういう戦法・戦術で「集団訴訟」を争うのか？、争点をどうするのか？、専門医及び医療訴訟専門弁護士などとのしっかりした協議が必要であろう。

「薬害事件」は過去にスモン、エイズ、肝炎、ヤコブ、サリドマイド、イレッサ、陣痛促進剤、子宮頸がんワクチンなど、いずれも訴訟で争って、一部は被害者の救済が行われてきたという先人の大きな努力があった。『薬害で訴訟以外で解決事件は1つもない』（医療系弁護士）であり、訴訟外の解決はあり得ない。一方、ベンゾジアゼピン薬害を訴訟外での解決を求める人は、上記のパターンのとおり、やはり、本人自身も「**原疾患の影響を自覚**」している方だと思われ、訴訟が無理と感じているのであろう。そうすると、「原疾患での障害認定」をうけるしか、救済はない。

2. 当会は「ベンゾジアゼピン薬害の国家賠償請求集団訴訟」を目指す原告団体

当会を「被害者の支援団体」と誤解している方がいるが、**当会は、薬害集団訴訟の原告団体**です。同じ被害者の同志として、集団訴訟を戦える方、同志を支えられる方を求めています。「何をしてもらえるのか」を考える人ではなく、「自分は何ができるのか」を考えて行動できる人を求めています。具体的には、協力弁護士・協力医師とのチャンネルのある方、又は、資金等の援助ができる方のご参加を求めます。

3. 第22回 精神障害者への3漬けによって損害を被るのはだれなのか？（**会員の情報提供**）

<https://www.youtube.com/watch?v=fejTjuS7EOA&t=174s>

各自でご判断下さい。

4. 「ボイスオブデイズー5」（**会員の情報提供**）

<http://www.cypac.co.jp/ja/products/vodi5/>

視覚障がい者にオススメのアプリとして情報提供がありましたので、転送します。ベンゾジアゼピン視力障害者の方へ。

5. 厚生労働省への意見書（医師の行政処分、医療法違反）（**参考添付**）

6. 控訴状__強制執行停止事件、他（**参考添付**）。

7. 誰に相談したらよいか__救いの道はある（松本俊彦）__LISA Vol.27 No..04 2020-4（**添付**）

情報 No.223 で紹介した NCNP 松本俊彦医師が、自らの処方薬で薬物依存となる麻酔科医などへの救済の指南書である。

この内容が、どれだけずれてるか、よく分かる文献である。

